

モヘアを混用した生地は、特有のハリや光沢、シャリ感などが好まれ、夏物の紳士用スーツ生地などに使われていますが、摩擦や折り曲げなどに対する強度に欠ける欠点があります。今回は、モヘアを混用したズボンに発生しやすい破損事故を紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

クリーニング  
処理方法  
に注意

素材  
特性  
に注意

### 衣類の状態

ズボン後ろ膝付近の折り目部分に破損やキズが生じている。利用者は、折り目に施したシロセット加工に問題があったのではないかと考えている。

擦を受けやすいことが原因として挙げられる。また、シロセット加工による生地の硬化なども一因となっている可能性があると考えられる。

### 事故の防止対策

自然発生的な現象のため、抜本的な防止対策はないが、硬くてハリやシャリ感のある生地を使ったズボンへの強いプレスやシロセットなどの折り目加工は避けることが望ましい。

### 原因

着用やプレスが繰り返されることにより、生地が徐々に磨耗して自然発生的な破損が生じたもの。特に折り目部分は、着用中の摩



モヘア混用の紳士ズボン（後ろ側）

### モヘア

モヘアはアンゴラ山羊の毛。生後6〜18ヶ月の毛はキッドモヘアと呼ばれ、最高級品とされている。他の獣毛に比べハリと光沢があり、シャリ感のある梳毛<sup>そまう</sup>服地や毛足の長いシャギー生地などに適している。繊維は外層が硬く、内層が柔らかい構造になっているため摩擦や折り曲げ、引き裂きなどに対する強度に欠ける欠点がある。モヘアを使用している「毛」と表示されているだけの場合もあるため、硬くてハリやシャリ感のある生地を使ったズボン、シャギーな折り目の付いたズボンなどについては、受付時に折り目部分をチェックし、生地が薄くなっていたり、摩擦などがあれば、破損する可能性があることを利用者に説明して了解を得ることが必要。

### 獣毛

※組成表示とは別に、裾やウエストの内側部分にモヘアを使用していることを表記した生地が縫い付けられていることもある。羊以外の動物からとれる毛を総称して獣毛と呼ぶ。衣料用としては山羊類、らくだ類を中心に約15種類。獣毛には、羊毛のようにはつきりとしたうろこや捲縮<sup>けんしゆく</sup>（繊維のちぢれ）のないものもあり、その繊維は表面が滑らかで光沢がある反面、繊維同士が絡み合う縮充性が少ないために組織がルーズなもののほど毛羽立ち、脱毛しやすいなどの特性がある。獣毛のうち、アンゴラ（うさぎ）、カシミヤ、モヘア、らくだ・キヤメル、アルパカは、組成表示に使用することができる指定用語になっている。



後ろ膝付近の折り目部分に破損が生じている

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」

- 品名…ズボン
- 素材…裾部分に「MOHAIR」と表記あり
- 取扱表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、加熱静止乾燥、スチーム仕上げ、シロセット加工



モヘアを使用していると判断できる表示



シロセット加工が施されているズボンに付けられているマーク